

| | 一般的名称 | 報告の概要 |
|-----|-----------------------|--|
| 219 | 硫酸ポリミキシンB | ポリミキシンBを投与した114例について急性腎障害リスクに関する調査を行った結果、22%の患者で血清クレアチニン1.5 mg/dLを超える急性腎障害が生じ、急性腎障害を生じなかった患者群に比べ死亡率の有意な増加が認められた。 |
| 220 | A型インフルエンザHAワクチン(H1N1) | 米国において、経鼻用の一価弱毒化生ワクチン(LAMV)および注射用の一価不活化スプリットウイルス又はサブユニットワクチン(MIV)の安全性プロファイルを評価するためVaccine Adverse Event Reporting Systemに報告された3,783例の報告及びVaccine Safety Datalinkからの438,376例の電子データを調査したところLAMV接種後の死亡例が3件、MIV接種後の死亡例が10件認められた。 |
| 221 | タクロリムス水和物 | 湿疹およびアトピー性皮膚炎の治療目的でタクロリムスあるいはピメクロリムス局所投与を受けた患者における各種がんの発現リスクを調べるため、後ろ向きコホート研究を行った結果、コントロール群に比べて本剤投与患者におけるT細胞性リンパ腫の発現リスクが有意に高かった。 |
| 222 | インスリン デテムル(遺伝子組換え) | インスリンアナログ製剤であるグラルギン、デテムル、リスプロ、アスパルトについて、培養癌細胞の細胞増殖活性及び抗アポトーシス活性への影響を、ヒトインスリン、インスリン増殖因子 I (IGF-I)と比較した結果、グラルギン・デテムルおよびリスプロはIGF-I様作用と同様な細胞増殖効果が認められ、さらに、グラルギンとデテムルでは抗アポトーシス活性が認められた。 |
| 223 | インスリン デテムル(遺伝子組換え) | インスリンデテムルが、低血糖発現時においてホルモンの変化や症状の変化を引き起こすかどうかを検討した結果、ヒトインスリンに比してデテムル投与群においては、低血糖中の自覚症状の増加がみられたが、一方ではcounter-regulatory hormoneの反応と、認識機能に影響は見られなかった。 |
| 224 | メロペネム三水和物 | 36例を対象にメロペネムとバルプロ酸(VPA)の相互作用に関してレトロスペクティブに評価したところ、メロペネム投与により用量非依存的にVPAの血漿中濃度が低下することがわかった。 |
| 225 | 塩酸イリノテカン | 塩酸イリノテカンを投与された511例を便秘あり群と便秘なし群に分け、副作用の発現状況をレトロスペクティブに調査した結果、便秘あり群においてグレード4の白血球減少および好中球減少が有意に高かった。 |
| 226 | フルオロウラシル | 胸部もしくは上腹部への放射線照射歴があり、かつ化学療法を併用した患者では、放射線療法もしくは化学療法の単独療法との患者と比較して、化生の発現率が有意に高かった。 |
| 227 | シンバスタチン | スタチンと筋毒性(横紋筋融解症、ミオパシー、筋肉痛)に関する文献をレビューしたところ、シンバスタチンによる筋毒性の発症率は、低～中用量では他のスタチンと類似した頻度であったが、最高用量である80mg/日では、他のスタチンの最高用量と比較し頻度が高かった。 |
| 228 | ダルベポエチン アルファ(遺伝子組換え) | 65歳以上で癌化学療法が施行された癌患者におけるエリスロポエチン製剤(ESA)投与の影響を検討したところ、ESAの投与を受けた癌患者は、ESAの投与を受けていない患者と比較して静脈血栓塞栓症の発現率が高かった。 |
| 229 | ヨード化ケン油脂肪酸エチルエステル | 本剤+シスプラチン製剤(CDDP)併用動注療法が施行された肝細胞癌17症例の治療奏効率、累積生存率についてレトロスペクティブに検討したところ、骨髄抑制2例、全身倦怠感及び食欲低下10例が認められた。 |
| 230 | ヨード化ケン油脂肪酸エチルエステル | 選択的肝動脈塞栓術が適応外であった肝細胞癌54症例に対して、本剤+シスプラチン製剤(CDDP)併用動注療法を行ったところ、54症例中6例に掻痒を伴う皮疹や咳などの副作用の発現が認められた。 |
| 231 | ヨード化ケン油脂肪酸エチルエステル | 進行性肝細胞癌60症例に対して、本剤+シスプラチン製剤(CDDP)併用動注療法を行ったところ、動注後肝不全が認められた。 |

| | 一般的名称 | 報告の概要 |
|-----|--------------|---|
| 232 | メトトレキサート | メトトレキサート単独長期使用の関節リウマチ患者55例を対象に治療効果及び副作用発現と薬物トランスポーター・代謝酵素の遺伝子多型解析を行った結果、葉酸代謝酵素MTHFR A1298C・CCにおいてAAより肝障害の発現リスクが有意に高かった。 |
| 233 | メトトレキサート | 関節型若年性特発性関節炎患者98例を対象にメトトレキサート(MTX)の薬物動態に関わる遺伝子多型とMTXの有効性や副作用との関連性を解析した結果、ホリルポリグルタミン酸合成酵素1994AA及びグルタミルヒドロラーゼ16TTの多型と肝機能障害との関連が認められた。 |
| 234 | ラベプラゾールナトリウム | プロトンポンプ阻害剤(PPI)の使用と市中肺炎の関連についてシステマティックレビューとメタアナリシスにより検討した結果、PPI処方初期の30日間において市中肺炎のリスク上昇の可能性があることが示唆された。 |
| 235 | ガドペンテト酸メグルミン | 約9万5千人のガドリニウム造影剤に暴露した患者を対象に、腎性全身性繊維症(NSF)の発症について後ろ向きコホート研究を行った結果、血液透析患者、腎移植患者での発症リスクはそれらを有していない患者に比べてそれぞれ77倍、69倍であった。 |
| 236 | メトトレキサート | 16～21歳の急性リンパ性白血病患者262例を対象に、同種幹細胞移植に加えてメトトレキサートを含む化学療法を行った試験において、5例で二次発癌が認められた。 |
| 237 | メトトレキサート | 高用量の化学療法にて効果が得られなかった再発もしくは治療抵抗性のホジキンリンパ腫および非ホジキンリンパ腫の患者57例に対して、メトトレキサートを含む低用量の化学療法を行った結果、敗血症による死亡が2例、脳出血による死亡が1例認められた。 |
| 238 | 染毛剤 | アレルギーなどの既往歴のない48歳女性が、本剤使用1ヶ月後に黄疸および肝機能値上昇のため入院となった。肝機能値が正常に戻ってきたため退院したが、再度本剤を使用し、一ヶ月後に再び肝機能値が上昇し、再入院。ステロイド中止後再燃していることより、自己免疫性肝炎の診断がついた。 |
| 239 | ビタミン含有保健剤 | 74歳、基礎疾患として白内障のある女性。本剤服用後に寝付けない等の自覚症状があり、目が開けづらい感覚もあったことから、眼科を受診したところ、閉塞隅角緑内障発作と診断された。 |